

アートマイル 海外交流 評価シート

■基本情報

学校名 [大阪府 高槻市立 第一 中学校] 担当教諭 [岡 崎 あかね]			
児童生徒の学年・参加人数 (複数学年であれば学年別に): [3 年 18 名] [2 年 6 名]			
実施期間: 2006 年 5 月 ~ 9 月 (10 月)			
交流相手: 国名 [シリア] 学校名 [UNRWA パレスチナ難民キャンプ] 学年 [] 担当教諭 [エマード・ラジダーン]			
実施教科・時数 <small>(関連させたものをすべて)</small>	教 科	単元名	時数
	美 術	3 年前期選択美術科	8 時間
			+ (放課後テレビ会議 4 時間)
			+ (昼休み/放課後制作 8 時間位)

■活動の流れ

時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
4 月	◆教師同士の自己紹介をテレビ会議で行う。 (パレスチナ難民キャンプと関大にて)		選 択 美 術 科
5 月	(1)テーマへの導入。(1 時間) (2)自己紹介を考える。(1 時間) (3)シリア/パレスチナ難民キャンプの様子を聞く。(講演会 1 時間)	・話を聞く。 ・英語で表現することに興味を持つ。 ・国語科で勉強した難民キャンプとの違いに、びっくりする。	
6 月	(4)自己紹介を考え、コンピューター室にて BBS に書き込む。(学校のこと/地域のこと/1 時間と放課後) (5)テレビ会議の練習。(1 時間) ●第 1 回シリアとのテレビ会議(放課後)。内容は自己紹介。	・熱心に BBS に書き込むが、時間が足りない。放課後も来て書き込む。 ・各グループで協力してする ●興味を持って、話す。	
7 月	(6)世界地図の中でどこを分担して描くか決めて、調べ学習を始める。(1 時間) ●第 2 回テレビ会議 (シリアの様子交流) 調べ学習は授業のカットのため、夏休みの宿題になる。	・積極的に関わろうとするが、時間が不足。 ● コンピューターから、パレスチナの民族楽器の音が聞こえてきた時は、一瞬びっくりし、聞きほれていた。	
9 月	(7)宿題を持ち寄り、下絵の制作と調べ学習。 (8)本描き ●第 3 回テレビ会議 (制作中間発表交流)。 【 前 期 の 授 業 終 了 】	・ 下絵や本描きを始めるが、時間が不足。 ● 自分の書いているところを熱心に少しでも英語で説明する。	
10 月	・ 昼休みや放課後の制作 (8 時間位) と、振り返り。アンケート記入。 10 月 10 日完成。署名。	・ 弁当持参で美術部も応援で描きに来る。 「もう少しで出来上がるね。もう少し色を工夫したほうが良かったかな。世界地図に見えるかな。一つ一つの絵に枠をつけたほうがいいかな。」質問を BBS にて交流。	

■設定した学習目標と得られた成果

(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:まったく関連がなかった)

つきたい力・指導目標	実感	手だて	評価方法
色彩・色相 活用 表現力	⑤・4・3・2・1	必修美術 教科の中で学習 発展として今回の作品に応用	5段階評定 描画表現力
構 想 力	5・④・3・2・1	必修美術 教科の中で学習 発展として今回の作品に応用	5段階評定 描画表現力
コミュニケーション力	5・4・③・2・1	グループで話し合わせた。言葉の 壁がある為、十分とは言えない	3段階評定 出席・会話表現力
情報活用能力	5・④・3・2・1	BBS に書き込む時間が、あまり 取れなかった。放課後も行った。	3段階評定 制作物の表現力
学習を追究する意欲	5・④・3・2・1	関大の学生さん達が、かなりバッ クアップや協力してくれた為。	3段階評定 参加態度
人と関わる力	5・④・3・2・1	インターネットの活用で学校を 超えていろんな方たちと関わる ことが出来た為。	3段階評定 出席・制作の様子
異文化・自文化の理解	⑤・4・3・2・1	資料やインターネットの活用。	3段階評定 制作物の表現力
協同作業をする力	5・④・3・2・1	制作箇所を分割したが、最後には 互いに協力し片付けをするよう になった。	3段階評定 参加態度

■今回の取り組みの成果と課題

成果	課題
<p>海外との共同制作や作品の海外展示を通して他者と出会い、インターネットを活用して、海外の生徒とリアルタイムで話をする事は、生徒自ら学びたい・知りたい・伝えたい」意欲をかきたて、主体的な学びへと変えさせる効果がある。</p> <p>主体的な学びとは、インターネットが単なる情報収集だけではなく、自分の自己実現のための道具であることを生徒自ら気づいたことである。難民キャンプの過去と現状を知って、相手の顔を身近に感じる交流を行い、自分で考えるきっかけを持てたことは、学習に受身がちな生徒にとって大きな変化であると思う。</p>	<p>中学校の選択授業の教科時数で取り組んだので、時間数や指導者が全く足りなかった。</p> <p>昼休みや放課後の制作では、指導する教師も会議や出張等で、生徒と共に制作に集中できない状況が頻繁であった。そのため多方面の方の御尽力により、完成することが出来た。</p> <p>しかし、制作物を元に学習することは時間が無く振り返りが十分出来なかった。</p> <p>制作したものを生かすには、1年間通して生徒も教師も変わらず取り組めるスタイルが必要である。</p> <p>また、一個人が進めるのは人的にも限界があるので、教科学習型ではなく、学年教師集団での取り組みによる、学年生徒全体の学習スタイルがふさわしい。</p> <p>たとえば中学校では、学年で取り組む「総合的な学習の時間」などのカリキュラムにふさわしいのではないかと考える。</p>